

中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会」（第4回）議事概要について**中央防災会議事務局（内閣府（防災担当））****1．専門調査会の概要**

日時：平成16年9月15日（水） 14：00～16：00
場所：KKRホテル東京11階「孔雀」
出席者：伊藤座長、池谷、北原、寒川、清水、首藤、武村、平野、藤井、
溝上の各委員、越村、高橋、長谷川の各小委員会委員
井上防災担当大臣、柴田内閣府政策統括官（防災担当）、原田内閣府大臣
官房審議官 他

2．議事概要

井上防災担当大臣のあいさつ後、事務局から小委員会における検討経過等について報告した後、「長崎豪雨災害」及び「明治三陸地震津波」に関する報告書案について分科会の主査等から説明を行い、大臣及び各委員からは以下のような意見等が出された。また、今後取りまとめる災害について、以下のような意見等が出された。なお、詳細な議事録については、後日各委員の確認を経た後、公表する。

報告書のまとめ方について

「長崎豪雨災害」は比較的最近の災害ということで、教訓がすぐ現代に反映される。資料が多いため報告書の分量も多いが、例えば、教訓の部分で伝えたいポイントを上手く強調できれば読みやすい資料となる。

「長崎豪雨災害」の災害で亡くなった方の名簿「過去帳」の掲載については、資料価値が高いが、プライバシー保護等の観点から、慎重に検討する必要がある。

「明治三陸地震津波」は、当時の政治・社会の状況が政府の支援（救助金）の取り組みに影響を与えていることもあり、時代背景を含めた記述があると更に興味深い。

「明治三陸地震津波」は、「住民」がどう対応したか、次の災害に教訓がどう活かされたかという視点をさらに充実させることが必要だ。

ある災害を取り上げる際、それ以前の災害教訓がどう活かされたのか、また、その災害教訓が次の災害にどう活かされたのかを検証すると、「災害教訓の継承」という意味で連続性のある教訓となる。

広く活用される資料とするためには、例えば、親が子供に読んで聞かせることができるような「読み物」としての部分をコラム等を活用して充実させてほしい。

「伝説」や「言い伝え」を紹介することで読みやすい報告書になる反面、誤った「言い伝え」によって避難が遅れた例もあり、慎重に検証した上で、掲載する必要がある。

防災の基本となる「警報」、「避難」、「救援」について、災害毎にどんな取り組みがなされたかをまとめることで、現代災害への貴重な教訓となるのではないか。

今後取りまとめる災害について

関東大震災については取りまとめを進めたいが、作業量が膨大になるため、具体的な進め方については引き続きお諮りしていきたい。

最近の頻出する豪雨災害等を受け、水害について、今後取りまとめる災害に追加することが考えられる。

最近の新潟県や福井県等の豪雨及び河川災害では「異常気象」「警報」「高齢化」などがキーワードになっている。過去の水害では必ずしも問題になっていない事項について整理する必要がある。

平成5年の鹿児島の豪雨災害を取り上げることが考えられる。

津波到達までの時間が短かった「日本海中部地震」を取り上げることが考えられる。

- ・「長崎豪雨災害」報告書案については、本日の意見を踏まえ、今後、座長等が文言を修正のうえ、後日報告書として公表することが了承された。
- ・「明治三陸地震津波」報告書案については、細部について執筆中であり、本日の意見を踏まえ、次回専門調査会で改めて報告することが了承された。
- ・今後取りまとめる災害は、小委員会で議論し、次回専門調査会で報告することが了承された。
- ・次回専門調査会の日程は、12月頃を目途に調整する。

< 問い合わせ先 >

内閣府政策統括官（防災担当）付

災害予防担当 企画官 久津摩 敏生

同 主査 西潟 政宣

TEL:03-3501-6996（直通）